

令和7年度 研究成果報告

看護の立場から適切な放射線治療 提供体制を検討 (専従・有資格看護師の意義と職務)

研究分担者 荒尾晴恵¹⁾

研究協力者 青木美和¹⁾、山本瀬奈¹⁾、藤本美生²⁾

1) 大阪大学 2) 兵庫県立がんセンター

1

1. これまでの成果のサマリー①

1) がん放射線療法看護認定看護師の看護実践に関する実態調査

がん放射線療法看護認定看護師310名を対象としたWEB調査

<量的な回答から>

- ・ CNとしての実践活動の確保により、専門性の高い看護実践の充実が図れる
- ・ 放射線科外来への配置によって、CNの看護実践力の発揮に繋がる
- ・ 看護部内の活動、横断活動の充実のためには、指導・相談の時間確保が必須である

<質的な回答から>

- ・ がん放射線療法看護CNの社会的意義の強調と普及に向けた取り組み
- ・ 組織におけるがん放射線療法CNの役割発揮
- ・ がん放射線療法看護CN個人の能力開発
- ・ がん放射線療法看護CNのネットワーク構築
- ・ 放射線療法看護の質向上

2) がん放射線療法CNの役割発揮のスキルアップ

組織・看護部との交渉、実践時間確保に向けた取り組み、看護部におけるチーム作り、施設内での放射線治療看護の実践を底上げするための取り組みなどの実践報告等のセミナー

(1)「組織における放射線治療看護の質の向上」セミナー開催 2023年2月4日 13:00～16:00 ZOOM開催

(2)第38回日本がん看護学会学術集会 交流集会『がん診療連携拠点病院の看護師要件の意味するもの』を実施 専門資格を活かした活動の現状とがん放射線療法看護CNの役割活動へのニーズに関して、参加者の意見を集約

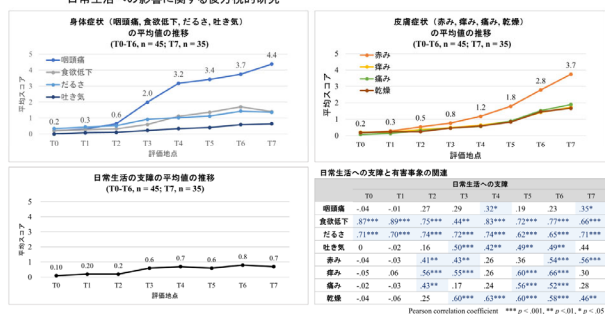
2

1. これまでの成果のサマリー②

- 3) 認定看護師の活動成果に関する文献調査および諸外国の基準を参考にした苦痛緩和に必要な専門的な看護師数の算出→JSTR037で発表→JSTR0内に看護小委員会設置
- 4) 研究課題名：頭頸部がん患者における放射線療法期間中の患者報告アウトカム（PROs）に基づく急性期有害事象と日常生活への影響に関する後方視的研究
- 5) 患者調査によるケアの評価：2つの患者調査に看護師のケアに関する項目をいれていただいた。1つは看護師に関する項目への回答はほとんどなかった。

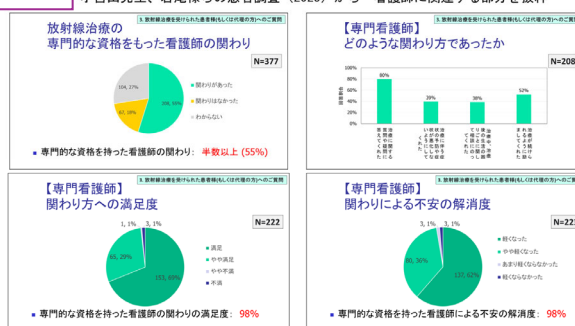
4) の結果

頭頸部がん患者における放射線療法期間中の患者報告アウトカム（PROs）に基づく急性期有害事象と日常生活への影響に関する後方視的研究



5) の結果

小宮山先生、若尾様らの患者調査（2025）から 看護師に関連する部分を抜粋

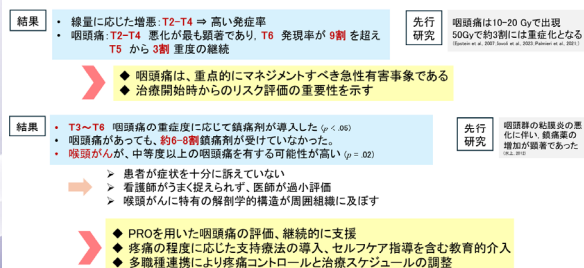


3

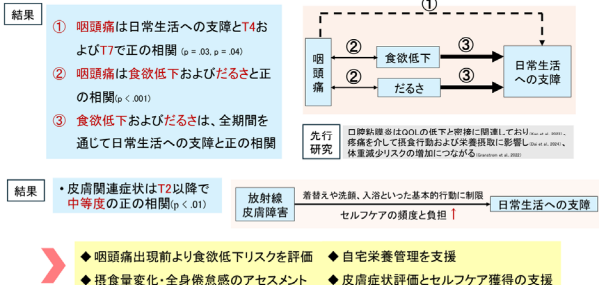
2. 前回会議（2025年12月）以降の進捗内容

- 頭頸部がん患者における放射線療法期間中の患者報告アウトカム（PROs）に基づく急性期有害事象と日常生活への影響に関する後方視的研究について考察を行った

考察① 咽頭痛のマネジメントにかかる看護支援の重要性



考察② 日常生活への支障の軽減に向けた看護支援の重要性



4

出典：島田千曉¹、石井健太郎²、郡田遼士¹、中原隆太¹、森本英之¹、板垣康¹、米倉修司¹
1多根総合病院、**2**大阪市立総合医療センター
日本放射線腫瘍学会学術大会報文集 37: 326-326, 2024.

PO2-2

特定認定看護師による前立腺寡分割照射における膀胱体積の再現性確保と医療被曝の低減

島田 千曉¹、石井健太郎²、郡田 遼士¹、中原 隆太¹、森本 英之¹、板垣 康¹、米倉 修司¹
 多根総合病院¹、大阪市立総合医療センター²

【目的】がん放射線療法看護認定看護師（以下特定CN）の役割として、新たに再現性確保への支援と医療被曝を最小限にするための放射線防護が追加された。今回、照射前の膀胱体積の再現性確保が通常分割照射より重要な前立腺寡分割照射において、特定CNの介入が照射時の膀胱体積の再現性を確保し、照射前に撮影するcone-beam CT（以下CBCT）撮像回数減少による医療被曝の低減に寄与するかを検討した。【方法】寡分割照射（51.6Gy/12fr）を受けた前立腺癌患者60症例で、特定CNが初回より脱水リスク評価を行いながら携帯型超音波診断装置を用いて介入した20症例（介入群）と介入していない40症例（非介入群）の治療中膀胱体積再現率（治療中膀胱体積/治療計画時膀胱体積）とCBCT撮像回数を比較・検討した。全症例において、治療中膀胱体積再現率が70%以上かつ初回CBCT撮像で治療可能となることを目標とした。【結果】2群間で治療計画時膀胱体積値に有意差は認めなかった（ $p=0.851$ ）。平均膀胱体積再現率は、介入群 $96.5 \pm 12.0\%$ 、非介入群 $86.9 \pm 14.2\%$ と共に目標値を達成したが、介入群の膀胱体積再現率が有意に上回った（ $p=0.022$ ）。また初回CBCT撮像で治療可能となった回数は、介入群は延べ240回中229回（95.4%）、非介入群は延べ480回中384回（80.0%）で介入群が有意に初回撮像での治療が可能であった（ $p<0.001$ ）。【結論】特定CNの介入により、膀胱体積の再現性確保とCBCT撮像回数減少による医療被曝の低減を可能にすることが示唆された。

出典：島田千曉、**日本放射線腫瘍学会学術大会報文集 36**: 194-194, 2023.

RQ8-2

がん放射線療法看護認定看護師としての役割ー特定行為研修後の実践ー

島田 千曉
 多根総合病院

【目的】特定行為研修を修了した認定看護師は、特定認定看護師として専門分野での高い臨床推論力と病態判断力に基づき患者の状態を見極め活動することが求められる。私は、がん放射線療法看護認定看護師（以下CN）として厚労省が指定する特定行為研修機関である当院において「栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連」1項目2区分の特定行為研修を修了し特定認定看護師となった。現在、全国CNのうち特定行為研修を修了したCNは21人であり、臨床現場における有用性は報告されていない。今回、特定認定看護師として介入した症例からその役割意義について報告する。【方法】対象は2021年4月から2023年3月に当院で放射線治療を受けた患者のうち、治療期間を通して脱水リスクを認めた22人である。手帳に該当した患者に対して、バイタルサイン、身体所見、尿量、水分摂取量、採血データ等から脱水評価を行い、脱水リスクがある場合は手順書に沿って介入した。介入において、水分摂取が可能な患者に対してはin outバランスをもとに不足した水分を補うための生活指導を行った。【結果】全介入患者数は延べ28人であった。疾患別では食道癌患者への介入が16人と最も多かった。介入時期は治療前1人、治療中20人、治療後7人であった。治療中2人において日々の照射の再現性が向上した。また介入した全患者が治療を完遂することができた。【結論】「栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連」1項目2区分の研修を修了したCNとして現場での役割意義が示唆された。

Journal of Radiation Researchに
 アクセプト、2026/02

研究協力に関する内諾

5

3. 論文、学術発表等成果

論文

1) 青木美和、藤本美生、山本瀬奈、荒尾晴恵、がん放射線療法看護認定看護師の役割活動と配置状況および活動時間の関連、**日本放射線看護学会誌**, 12 (2), 25-35, 2024.

発表

1) 青木美和、藤本美生、中村成美、山本瀬奈、荒尾晴恵、がん放射線療法看護認定看護師の看護実践の実態、**第38回日本がん看護学会学術集会**, 2024.

2) 荒尾晴恵、青木美和、山本瀬奈、藤本美生、がん放射線療法看護認定看護師におけるネットワークづくりの実態、**日本放射線腫瘍学会第36回学術大会**, 2023.

3) 丘考梅、青木美和、荒尾晴恵、放射線療法を受ける頭頸部がん患者の主観的な急性期有害事象の経時的変化、**第40回日本がん看護学会学術集会**, 2026.

その他

1) 第38回日本がん看護学会学術集会 交流集会『がん診療連携拠点病院の看護師要件の意味するもの』, 2024.

2) 日本放射線腫瘍学会第37回学術大会 ワークショップ『放射線治療現場におけるあるべき看護師の役割と他スタッフとの協働』, 2024

6